

令和8年 **6** 月の大阪**森林**便り

(1) 消える木陰、世界と逆行

日本の街路樹 50 万本減 庭木も相続で伐採

- *海外の大都市は気温上昇を抑える木陰の拡大に取り組んでいます。
 - *国内の街路樹は直近の 2022 年調査時点で 629 万本と、ピークの 2002 年（679 万本）から 50 万本減りました。
 - *人気を集める街路樹はハナミズキ。この 30 年で 3 倍増。
 - *成長が遅く、枝切りの費用が抑えられます。*ただし木陰は小さくなります。
 - *日本では市街地の再開発で木を植えるために道路幅を広げることはまれ。
 - *樹木は気温上昇を抑えるだけでなく、水を蓄えることで防災に役立ち、よりよい景観は都市の価値向上につながります。
- (2026 年 5 月 24 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 住宅用国産木材値上がり 製材品 1～2%

輸送費上昇を反映

- *米松 KD 平角の東京地区の取引価格は、前月比 1.2%上昇。
 - *船便の燃料費が上昇した分を出荷価格に転嫁。
 - *杉正角は 1.7%上がりました。
 - *国産の杉を使った柱材に需要の一部がシフトしたことが背景に。
 - *集成材も上昇しそう。
 - *接着剤が品薄と価格上昇に直面。
 - *合板も、メーカーが 5 月からの値上げ。
 - *木造住宅の着工面積は 3 月に前年同月に比べ 3 割ほどの減少。
- (2026 年 5 月 21 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

